

境港～米子間高規格道路を展望

「渋滞解消の代償」、集団移転・自治会の分断・車公害～波及！



市議会議員
遠藤とおる

市民の政治腐敗への憤りは、与、野党を問わず日毎に強まっている。政治腐敗は、政治家の虚勢と保身が元凶。小泉政権の「劇場型政治」は、政治と経済に破壊的な衝撃を遺す。「一強政治」と「株高経済」、「貧富の格差拡大」。

国富みて、民貧し

「境漁港から、約40分かけて米子ICに着く。」、事業目的は、時間短縮。日本海側の拠点港と高速IC間の時間は、稚内港28分、金沢港15分、下関港12分、等々と、比較的近い。

運送時間・短縮

米子IC～境港40分・遠い

「どのような道路か」、市民を外に「高規格道路」の事業化へ、知事と二市一村の首長の活動が活発になっている。国要望も、「前向きな回答」を引き出したと、県当局は期待を抱いている。道路計画は、誰にとって必要なのか、事業目的と市民生活の影響を探る。

「ルート」選定は、知事と市長の会談で、事業の決定権を持つ国に委ねている。国要望に、ルート(案)の想定は含まれていないのか、説明義務も国任せか。事業手法が、「高架&平面」方式であれ、幅員20m超の道路敷は、既存のまち景色を剥がして通る。住宅、事務所等、大規模な移転と自治会の分断など、まさに激痛が走る。

どこを通るか、「ルート」は未定

米子ICに、境漁港から40分要する要因に、国道431号の皆生～三柳区間の慢性的な渋滞が課題にある。道路計画は、渋滞解消にどのような事業手法を選ぶのか。高架方式か、平面工法か又は併用か、決まっていない。

米子～境港間高規格道路・ルート
予定区間(米子IC・尾高～境港市)



「中海架橋」、待望膨らむ 米子市・境港市・安来市の連携

山陰の商都復活の米子、漁業と観光の境港市、金属製造業が集積する安来市。弓ヶ浜半島・米子湾を跨ぐ三市の連携と「将来の20万人都市構想」を描く。「中海架橋」の構想、夢の懸け橋。

中海、20万人の街づくり構想！

事業効果に、慢性的な渋滞の解消で、市街地の活性化が期待されるとある。市街地を、通り越す「バイパス道路(高架)」で、活性化が託せるのか。大型クルーズ船の寄港、空港の国際化(チャーター便)等、インバウンドの観光客の増加も、「渋滞の解消」で多方面への周遊観光の拡がりがあっても、市域経済への効果に期待がもてるのか。防災は、原発の稼働を止める。津波被害は、海岸の離岸堤整備を行う。

事業効果、物流・観光・防災

境港市ら、「市街地を通る米子市は、大変だろう。」と、同情の声も聞こえる。「ルート」の沿線住民は、車の騒音公害という新たな環境問題と直面する。